

奈良のこと（古都）

（1）世界遺産「古都奈良の文化財」

まえがき

京都・太秦に生まれ、大学を卒業するまで22年間ずっと京都に住んでいたが、就職を機にサラリーマンとして転勤生活を重ねた。北九州に18年間勤務し、そこで結婚、3人の子供が産まれた。その後、大阪に4年、東京に4年、48歳で大阪に戻った。最初の大阪転勤時に奈良に居を構え、その後の東京勤務時は単身赴任であった。

68歳でサラリーマン生活に終止符を打つまでは、地元・奈良のことはほとんど知らないまま過ごしてきた。リタイア後、30年間世話になっている地域社会にお返しをしたいと考えていたところ、たまたま「観光ボランティアガイド」の募集を知り、登山で鍛えた足の強さと、声の大きさには、自信があったので、観光客の「道案内」なら出来ると軽い気持ちで応募した。レポート提出などの難関を突破して採用され、8ヶ月間の講習期間に入ったが、理系男子の典型的な自分にとって、もっとも苦手とする歴史や仏像などの文化を詳しく覚えなければ、ガイドは務まらない事が解った。受講生には、歴史、仏像の「オタク」と言われる人が多くいた。既に受講料5千円を払ってしまっていたので、ズルズルと続けている内に、酒好きで気の合う仲間が出来、講習終了後には「なら・観光ボランティアガイドの会」に入会する羽目になってしまった。

その後2011年3月までの4年間、観光ボランティアガイドとして貴重な経験をさせて貰い、会の先輩や同僚達には、感謝している。そして、奈良の古寺や、仏像等を勉強すればするほど、奈良に愛着がわき、今では古い歴史と多くの文化財を有したこの町に住んでいることを誇りに思っている。

観光ボランティアガイドの4年間で一番大変だったのが、2010年の「遷都1300年祭」であった。メインの平城宮跡会場には、目標の250万人を遙かに上回る363万人の観光客が来場し、私たち「ガイドの会」も大奮闘、平均年齢68歳のメンバーの中には倒れる人も出たほどである。

真夏にもほぼ連日のように平城宮跡を観光客と一緒に歩いていた。またチームのリーダーをしていたので、ガイドの手配など忙しい一年であった。

修学旅行などで奈良へ来たことがある人に聞くと、殆どの方が大仏さんと鹿のことしか覚えていないようである。皆さんに奈良のことをもう少し知って頂きたく、ガイドで勉強した事などを6回に分けて投稿する。

- （1）世界遺産「古都奈良の文化財」
- （2）平城京（平城宮跡）
- （3）東大寺
- （4）興福寺・春日大社
- （5）西の京（薬師寺・唐招提寺）
- （6）ならまち（元興寺）

私は学者でも研究者でもないので間違った記述もあるかと思うが、「観光ボランティアガイドの戯言」とお見逃し下さい。

奈良市内ならどこでもご案内が出来るので、ご希望の方はご連絡下さい。世界遺産だけではなく、奈良市内の他のスポット：法華寺や新薬師寺、柳生、清澄、田原などに行ってみませんか。

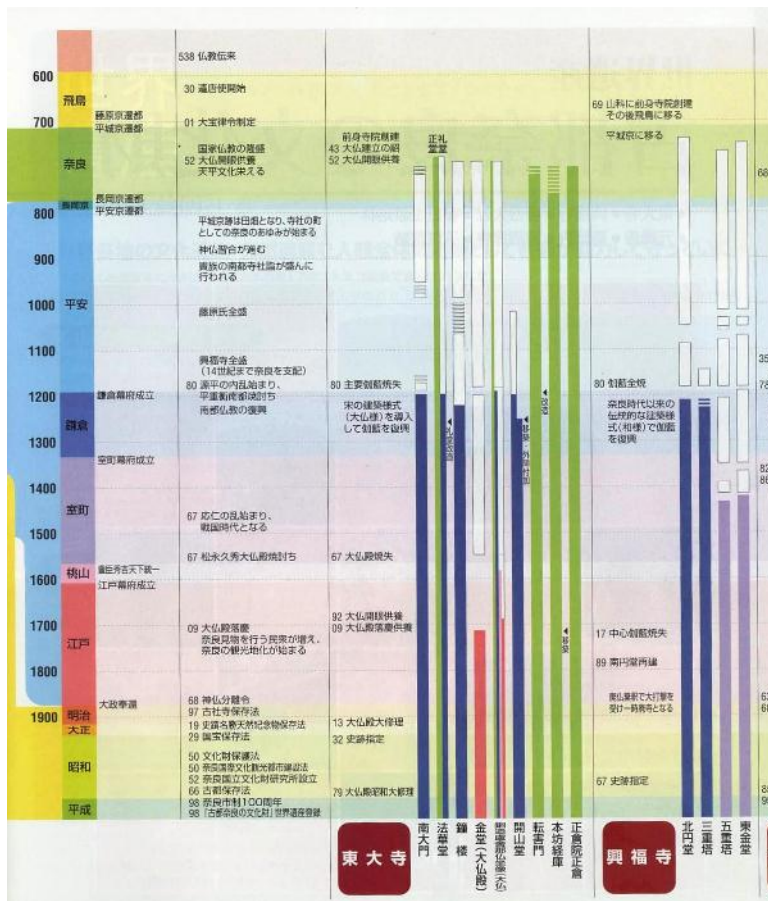
* 世界遺産「古都奈良の文化財」 *

1998年に奈良市の8資産が「古都奈良の文化財」として世界遺産に登録された。

(東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡)
平城宮跡には地下に遺跡があるのみであるが、1300年前の都の中心であった。春日山は古代から神の山として崇められ、1000年以上も人手が加えられない原始林であった。これらは特別史跡や天然記念物に指定されている。

6箇所の社寺には国宝の建造物があり、敷地が史跡に指定されている。また、仏像や絵画など多くの国宝を所有している。

世界遺産リストへの登録に当たっては、個々の資産が評価されたのではなく、8資産全体で奈良の歴史や文化を物語っている事が評価された。



左図は、飛鳥時代から現代までの歴史年表と、東大寺、興福寺の建築物の歴史を示している。

緑色の線は、創建時のものが現在も残っていることを示しており、東大寺では法華堂（三月堂）の半分（正堂）と正倉院、転害門がそれに当たる。

白色の線は焼失の歴史を示しており、興福寺の東金堂や五重塔は5回の焼失後室町時代に再建されたものである。

平城宮跡には創建当時のものは何も無く、地下の遺跡から発見される木簡や遺構から、奈良時代の事柄を知る手がかりを得ている。

今回の「平城京」で詳しく書くが、現在は復元された「朱雀門」「東院庭園」「大極殿」「遣唐使

船」等を見ることが出来る。

蛇足ながら、奈良県には他に2つの世界遺産がある。「法隆寺」「熊野参詣道」である。法隆寺は姫路城と共に日本の世界遺産第1号である

(色染・昭35 坂東久平)